

安寧



兵庫縣姫路護國神社社報
 「安寧」第三十号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒670-0033 姫路市本町一八
 電話 〇七九-三四一〇八九六
 安寧(あんねい)世の中が穏やかで平和なと)

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

英霊の言乃葉

(平成十四年十二月靖國神社社頭掲示)

十二月八日

タイ王国元首相 ククリット・プラモード

日本のおかげで、アジアの諸国はすべて独立した。日本というお母さんは、難産して母体をそこなったが、生まれた子供はすくすくと育っている。今日東南アジアの諸国民が、米英と対等に話ができるのは、一体誰のおかげであるのか。それは身を殺して仁をなした日本というお母さんがあったためである。この重大な思想を示してくれたお母さんが、一身を賭して重大決心をされた日である。

われわれはこの日をわすれてはならない。

ククリット・プラモード氏は、一九二一年(明治四十四年)にタイ王国の名門の家に生まれ、英国オックスフォード大学に留学、帰国後は新聞記者として同国で最も権威のある「サイヤム・ラット」紙の主幹を務め、一九五五年(昭和三十年)六月に元タイ駐屯軍司令官であった中村明人陸軍中将がタイ王国に国賓待遇で招待された時、同紙に発表した記事が先の文章である。その後、一九七三年(昭和四十八年)には社会行動党の党首として首相になっている。(名越二荒之助編『世界に開かれた昭和の戦争記念館第4巻・大東亜戦争その後』展転社発行を参考。)



令和五年度 春季例大祭 齋行

五月二日 午前十時三十分

若葉の萌ゆる快晴の中、令和五年度 春季例大祭が齋行された。境内には管下よりご祭神を偲び、多くのご遺族や関係者が参列に訪れた。午前十時半の号鼓を合図に宮司以下祭員、三木英一大祭委員長、三宅知行崇敬奉賛会会長、北浦基弘兵庫県遺族会会長、釜谷研三崇敬奉賛会副会長、三木通嗣兵庫県神社庁副庁長が本殿へと参進した。ご英霊に一拝し、姫路市民合唱団の演奏で国歌斉唱を行った。

今大祭では新型コロナウイルス感染拡大防



宮司以下祭員参進

止の為に中止を促した。合唱や吟舞を三年ぶりに再開をした。次に宮司がご英霊の鎮まるご本殿の御扉を開き、ご遺族をはじめ市内農家より献じられた海川山野の数々

の神饌を、本殿奥深くにお供えた。また、淡交会西播磨支部及び西播磨青年部により、心を込めてたてた抹茶とお菓子がご神前へと献ぜられた。

静寂の中、

宮司がご神前に進み、祖国の礎となられたご英霊への感謝と、安寧を祈る祝詞を奏上した。続いて三木大祭委員長、三宅奉賛会長、北浦兵庫県遺族会会長により祭文が奏上された。

次に姫路吟剣詩舞道連盟 福田賀穂陽氏、瀨野鯉正氏、尺八演奏 富士原浩山氏により扇舞「護国の英霊に捧ぐ」が奉納された。姫路市民合唱団より「おもひ子」そして「キウウの鳥のうた」の二曲を奉納された。その後、管内西播、東播、但馬地区よりご遺族代表、陸上自衛隊姫路駐屯司令、衆参の国会議員代表、兵庫県神社庁副庁長が玉串を奉り、参列者一同関係の御代表にあわせて拝礼を行い滞りな



扇舞奉納

く祭典は齋了した。

宮司の祭典終

了の挨拶では、「神道では『かむながら』という言葉があります。神様のご意向を受け入れるということ。自然という言葉があります。これも、もともと

あるがまま、という意であります。日本の道徳観、条理はその自然とともにあります。私たちのご先祖は、皇室を仰ぎ、祖先を敬い、自然を畏敬しつつ、まさに国難を様々な知恵で乗り切つてこられたからこそこの歴史があります。命を懸けて国家を守られた先人に報いる生き方ははなにかを、私たちは、常に思考することは必然であります。国難に立ち向かわれた大御稜威をいただきます、令和の御代が、平和で国家安泰でありますことを、皆様方とともに祈り申し上げますと存じます。」と参列者へ挨拶した。祭典後は、来賓や各団体の役員等で三年ぶりの直会が行われた。年二回の例大祭では姫路郷友会の奉仕により、祭典の受付がなされている。



姫路市民合唱団による奉納演奏

崇敬奉賛会安泰祈願祭並びに 令和五年度 総会開催 四月十七日

四月十七

日午前十一

時、本殿に

て崇敬奉賛

会役員十八

名参列のも

と、奉賛会

の更なる発

展と会員の

健勝をお祈

りする安泰

祈願祭を斎

行。その後、

参集殿にお

いて令和五

年度 総会

が開催され

た。

冒頭の三宅

知行会長挨拶

では、「崇敬奉

賛会

設立の目的

は、英霊に感謝の誠を捧げることが第一義でありませんが、その御功績を子々孫々にまで変わることなく顕彰し伝えていくことも、大きな使命のひとつでもあります。この三年余り、企業活動や社会生活は、疫病対策に追われる日常で在りましたが、ようやく平常に戻りつつあります。崇敬奉賛会としても令和四年度は、おおむね通常の活動にもどりました。阿比野委員長を中心にほぼ毎月ご開



安泰祈願祭

催の運営委員会
では年間の行事
をご協議、企画、
実践をいただき
充実した行事を
行うことができました。」コロ
ナ禍という長い
トンネルを抜けて、ようやく本
来の活動が再開
された事と、そ
の活動の中心を
担う運営委員会の労をねぎらった。



事業報告では、英霊顕彰の集いでの「サン
フランシスコ講和条約七十年」に関連しての
講演の開催報告や、十一月五日にあいめつせ
ホールにて行われた山中浩市氏による「護國
神社の歴史について」の講演会報告などが行
われた。総会の後は三年ぶりに直会が行われ、
盛会のうちに終了した。

参議院議員 佐藤 正久氏
三月十一日

参議院議員 佐藤 正久氏 正式参拝

三月十一日

兵庫県議会議員北野実氏の御同道で佐藤正
久氏が正式参拝された。参拝後、三木総代会



長をはじめ、隊友会姫路支部、姫路郷友会、霊
友会第八支部の方々と、憲法改正や自衛隊員の
待遇改善の問題など、熱く意見交換された。

靖國神社崇敬奉賛会 あさなぎ会
正式参拝
六月十八日

「生野義拳」 史跡探訪の一環で十名の会員の皆様が参拝された。参拝ののち参集殿において当社の生野義拳殉難の御祭神について、志士の慰霊顕彰、神社の歴史などを研修された。その後、生野義拳終焉の地や朝来市の山口に鎮座する山口護國神社などを参拝された。



参議院議員 有村 治子氏
正式参拝
八月二十六日

日本会議中・西播磨支部主催の講演会に先立って、参議院議員有村治子氏が正式参拝された。神社本庁傘下の神道政治連盟が推薦する議員の一人で、平成十三年、三十歳の若さでご当選以来四期にわたって、日本の姿が確固たる伝統文化の元に凜としたものとなるように、世界で輝く国となるように努力を重ねておられる。



正式参拝

再来年、令和七年は参議院議員の任期満期の年でもあり、終戦八十周年の年である。特に靖國神社や護國神社の祭祀の重要性を改めて再認識する年でもあり益々活躍していただきたい。

終戦七十八年、

嵐の中の英霊感謝祭

姫路第百十一連隊の特集は
来年に持ち越し

終戦から七十八年となる八月十五日、令和五年の英霊感謝祭が厳粛に執り行われた。

この日、台風が兵庫県を直撃し縦断するとの予報により、前日に英霊感謝祭は神職のみで行い、英霊顕彰の集いは中止することを決断することになったが、それでも奉賛会運営委



員をはじめ二十名余りの会員が集まった。風雨が強まる中、本殿では午前十時より英霊感謝祭が行われ、泉宮司が祝詞を奏上し、また慰めの舞を奉納した後、三木英一総代会長が参列者を代表して玉串を捧げ、参列者全員で深い祈りを捧げた。



英霊感謝祭

その後、会館に移動し、わざわざ参列いただいた方々に英霊顕彰の集いの一部の演目を披露した。今年のテーマは「ビルマの戦い」の予定であった。これは昨年、NHKで放映された、ビルマ（現・ミャンマー）での日本軍の戦闘を取り上げた特集番組で、NHKから神社に姫路の第百十一連隊に関する問い合わせがあり、資料

協力をしたことがきっかけだった。残念ながら視点が異なっていたため、インパール作戦を含むビルマの戦いの全容と姫路の部隊の奮闘ぶりを伝えようと企画したものだ。

奉賛会有志の青年三名が「英霊の言乃葉」を心を込めて朗読した後



朗読をする三村恵氏

長年イギリスの支配下にあったビルマが昭和十八年に日本軍の支援によって独立を果たした史実を伝えるオリジナルの朗読劇「ビルマの独立を支えた日本軍」（作・前川英昭常任理事）を三村恵さんが読み上げた。



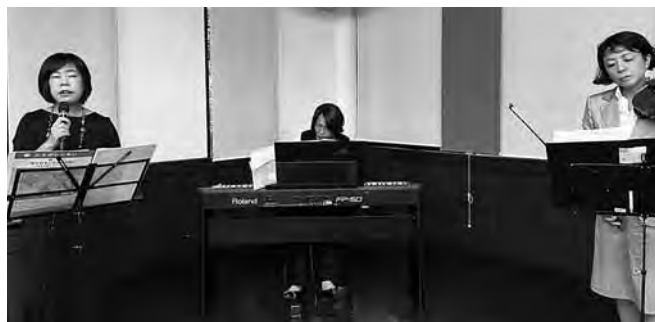
英霊の言乃葉

護國神社音楽隊として三名、ボーカルと、尼子美保さんのピアノ、前川美加さんのバイオリン演奏により、「九段の母」「湖畔の宿」の二曲を披露。終わりに「愛国行進曲」を参加者全員で歌った。

正午には再び本殿に移動。日本武道館で行われた全国戦没者追悼式のラジオ中継に合わせて黙祷し、天皇陛下のおことばを謹んで拝聴した。その後、「海ゆかば」を斉唱し、閉会とした。

三年余りに及ぶコロナ禍もようやく明け、英霊感謝祭・英霊顕彰の集いが制限なく開催できることを待ち望んでいただけに残念でならない。この間にも奉賛会行事等において、命がけの戦場体験を我々に語ってくれた方々の多くが鬼籍に入った。

二年後には終戦から八十年の節目となる。今後とも護國神社での祈りは変わることはないが、次世代にどのように継承していくべきか奉賛会の皆様にも大いに考えてもらいたいと思う。



護國神社音楽隊の演奏

シリーズ 英霊の戦場 (五)

郷土の偉人

大西瀧治郎海軍中將の苦闘(二)



大西中將(右)と門司副官

■大東亜戦争への道程

昭和十四年九月第二次世界

大戦が欧州で勃発。昭和十五年七月第二次近衛内閣成立、日独伊の連携強化、対ソ不可侵条約等の他、米国の実力干渉は堅い決意で排除の基本政策を確定した。昭和十六年一月から対米交渉が始まるも開戦したい米政府の策略に嵌る。

■真珠湾奇襲計画に携わる

昭和十六年一月大西少将は第十一航空艦隊参謀長(台湾)に着任早々、山本連合艦隊司令長官から「密談がある、直ちに呉に来い」との電文で旗艦「長門」に急行。日米開戦の際は真珠湾の米国海軍奇襲成功の研究を託される。軍事目標と空爆方法を源田実少佐と綿密に作戦計画を立案し四月長官に提出、然し大西少将は二つの難点(湾の浅

い水深と隠密接近)を具申して計画の実行性には疑問を付加して答申した。同月司令長官南雲中将・参謀長草鹿少将で第一航空艦隊(空母六隻)を創隊。草鹿少将も真珠湾奇襲作戦は成功率が低いと反対であった。相談を受けた大西少将は草鹿参謀長に『山本長官の腹は決まっている 成功に向けて訓練を工夫せよ』と説得。

■比島攻略作戦に従事

大東亜戦争開戦(真珠湾の奇襲)時、台湾の陸海軍機は比島の米航空部隊を奇襲して制空権を確保し、日本軍の上陸作戦を援護しなければ真の開戦成功に成らないと。大西参謀長は「トラトラ」(奇襲成功)の無電を聴くと直ちに全機を発進させる作戦であったが、当日の台湾全島は濃霧に覆われ攻撃隊の発進は不可能であった。米軍側でも日本軍機が大挙空襲に来ると予想して比島北方に偵察機を飛ばして捜索したが密雲が広がり日本機や艦隊の発見は皆無、偵察機は燃料限界で着陸、地上で待機していた搭乗員も奇襲は無いと判断し休憩。一方日本の偵察機から「比島の密雲が消滅中」との無電で、全機一斉に離陸して休息中の米軍主要空軍基地に突入し、地上撃破・撃墜等で極東空軍戦力の四〇％を撃滅。大西参謀長は戦果に満足せず、十二日まで残敵空軍力を掃討してほぼ潰滅状態にさせた。この結果、陸軍は比島・マレー半島・ジャワ島に無事上陸。大西少将はこの功績で昭和十七年二月航空本部総務部長に栄転。

■再度大艦巨砲主義派と対立

昭和十七年五月 国策研究会の講演で戦争指導者を前に「書類ばかりをいじくっている「長」のつく者は百害あって一利なし、即刻辞めて貰いたい。又戦艦ばかり作っているのを止めて航空機を作れ」と、これに対して艦政本部は強く反対し作戦面や資

材配分の面で航空本部と対立する要因となった。

■航空機増産に心血を注ぐ

大西少将は、航空機の増産に一番重要なのは必要な資材の確保にあるとして、中国大陸で活躍している児玉(誉士夫)機関長を訪ね、氏の人柄や商いの方法を確認した。「中国人のメンツを重んじ、信頼と信用を第一として現場主義に徹し、即決する」やり方に両人はお互いを理解し、大西少将の為なら必要物資の種類と量の情報を収集して、要求以上の報告量に増産体制の構築に着手。児玉氏から広大な中国の奥地から物資を輸送するには鉄道路線の安全が不可欠とし、大匪賊「紅槍会」の協力が必要であるとしてお互いの利益と安全を確認し、徐州で帰順式を挙げるようになったが現地の日本軍は難色を示した。

そこで児玉氏は大西少将に中国出向を促し、少将は難色の陸軍参謀を説得して調印式に出席し、大西少将の堂々とした言動は親近感を与えて式は成立。以後、広大な中国の奥地等から航空機増産の資材が順調に入手可能になった。

六月七日ミッドウェー海戦で大敗し、同期の山口多聞少将戦死の報に接する。暗号が解読されていた疑いを解決しないまま海軍は終戦まで苦戦が続いた。

昭和十八年四月十八日航空戦力増強派山本長官戦死には「試練を越える」と部下に誓う。その後中将に昇進。

これまで陸海軍は夫々で航空機生産を推進していたが、大西中将は軍需省航空兵器総務局に転任し、陸軍の総務局長遠藤三郎中将と親密な協力関係を築き、増産体制を円滑に推進した。

■サイパン陥落で「海軍再建論」を具申

サイパンは難攻不落と豪語していた陸海軍上層

部は僅か半月で陥落、東條内閣総辞職後小磯首相・米内海相内閣が出現した際、海相に「海軍再建論」を提出、熟読した後、大西中将に希望の軍令部次長を推薦したが反対派の意見が強く実現しなかった。その後、軍令部内では「大西は軍政より前線指揮官が適っている」との評価で、昭和十九年十月二十日比島の第一航空艦隊司令長官に親補、上海・台湾高雄経由で比島に向かった。

■陸海軍の特攻兵器開発状況と大西中将

昭和十八年六月 侍従武官 城英一郎大佐から「艦攻・艦爆に爆弾を付けたまま、志願した操縦員一名のみとして体当り攻撃」の意見具申に対して「操縦員が百%死亡する攻撃方法は採用すべき時点ではない」と大西中将が却下。同年十月 黒木博司大尉と仁科閑夫中尉が共同研究した「人間魚雷の設計図と意見具申書」を軍令部に提出するも中将が却下。

昭和十九年四月軍令部の黒島亀人少将は作戦部長中澤佑少将に、「体当り戦闘機」「装甲爆破艇」他新兵器開発を提案、軍令部は九種類の「特殊兵器」の製造実験を海軍省に命じる。同年五月 大田正一少尉が大型爆弾に翼と推進装置・操縦席を付けた「人間爆弾」の着想を提案、中将も同意し、研究開発を進める決定が承認、空技廠が試作（後の桜花）を開始。

■比島航空前線指揮官で特攻作戦を決断

大西中将が比島に赴任したのは十月十八日、司令官寺岡中将から航空戦力の著しい減少（稼働機約三十九機）を詫びて引き継ぎを受けた。十九日副官を乗せてクラークフィールド基地に向かう車内で「決死隊をつくる」と覚悟の心境を漏らした。基地に着いて参謀長・副長・各隊長を集めて「特攻隊」提案に対して出席者が賛同し、神風特別攻

撃隊が編成。

大西司令官は特攻志願者を前に『今の戦況を救えるのは、大臣でも大将でも軍令部総長でもない、純真で、氣力に満ちた若い君たちである。国民に代わって頼む』と訓示。初回の攻撃で成果を得る為ベテランパイロットを選定（敷島隊五機・指揮官 関行男大尉）四度出撃したが敵艦を発見出来ず引き返すが五回目の二十五日はスラン島の東方に三十隻の艦隊を発見、迎撃機の攻撃をかわし高角砲の弾幕をすり抜けて空母二隻に二機突入内一隻を撃沈、一隻損傷、軽巡洋艦に二機突入撃沈（米海軍の報告書と違いがあるが）この戦果により以後特攻隊が終戦まで続く。「十死零生」「統率の外道（人道に背く）」を自認しつつ救国に苦渋の決断を一身に背負って実行した。

尚、台湾の第二航空艦隊司令官福留中将が三五〇機を引連れて比島防空に派遣され、大西司令官は指揮官を福留中将に一任して参謀長として協力した。

台湾沖の米軍艦隊を一網打尽すべく二百五〇機で総攻撃する案に、中将は特攻案を進言したが否定され、出撃したが戦果が得られない上、二百機を失う大敗北。以後、福留中将は大西の特攻作戦採用に同意した。航空機を失った大西司令官は十一月十九日、自ら航空機三首機と搭乗員の補充要求に帰国したが結果は百五十機を受け取ったのみ。二十年一月、米軍のリングエン湾上陸戦に全機で特攻を実施して上陸支援艦隊に大打撃を与えたものの阻止はできなかった。航空機を失った大西中将は陸軍の山岳防衛戦に協力すべく部下と訓練や陣地構築に邁進中、「二航艦を解除するので台湾に移動せよ」との命令が届く。

台湾において、特攻精神の講演に感動した軍派遣記者が、検閲を受けないで新聞に掲載した記事が、物議を醸した。しかし中将は意に介さず、記

者は処罰を免れた。四月、米軍が沖繩に上陸後、陸海軍総力で特攻を発令。上陸支援艦隊に多大の損害を与えたが戦力の差を縮められず、島民を巻き込んだ沖繩地上戦闘も悲惨な戦況となった中、五月十日軍令部次長就任の辞令が届く。

■軍令部次長

五月十五日厚木に着く。ドイツ降伏後、海軍部内に米内海相の和平派と豊田軍令部総長の戦争継続派が互いに反目。大西中将は継続派を強化するために呼ばれたと言われている。以後終戦まで本土決戦時に備えて保有一万機で上陸軍に大打撃を与える作戦を陸軍の遠藤中将と立案、その後原爆の投下、ソ連の参戦等で「戦争指導会議」が開かれ、和平が継戦か結論が出ないまま、八月十四日「御前会議」に大西次長は出席に及ばずとの通達で、ポツダム宣言受諾を知る。

■大西中将の自決

八月十六日未明、次官室から重苦しい音で従兵が駆けつけたら血の海でうつ伏せの中將の姿を発見、直ちに軍医が駆け付けたが国を護る為苦闘した中將の最期の言葉は「生きるようにしないでくれ、送り出した部下たちとの約束を果たせよ」との想いを残してその夜六時に絶命。

淑惠夫人には感謝を示す微笑みを浮かべて永眠された。享年五十五歳。夫人は、戦後大変な苦勞をされて、墓碑と等身大の「海鷲観音像」を横浜市鶴見区総持寺境内に建立された。

参考文献 「海軍中将 大西瀧治郎」 秋永芳郎

「空と海の涯で」 門司親徳（元副官）
防衛省戦史叢書 「海軍捷号作戦」

（文責 崇敬奉賛会常任理事 曾田孝一郎）

崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた

英霊を大事にしたいと思う人

先祖を敬う心を持っている人

見えないものを受け継いで

いきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を

支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し

そして汗をかき、

涙を流しましょう

奉賛会事務局

〒670-0012

兵庫県姫路市本町118

電話 079-224-0896

<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

新年万灯祭

献灯のお願い

毎年一月一日から一月十日の間

新年万灯祭を行っています

ご神前に献灯し

神の庭を明るく照らし

心和やかに、心安らかに

新しい年が迎えられますよう

神前献灯に是非お申し込み下さい

献灯初穂料 一灯一万円



当社では祭典や各種行事、限定御朱印など神社に関する最新情報を
Instagram・フェイスブック・エックスを使用し発信しております。

下記QRコードよりどうぞアクセスしてください。

